

方 面	中隊長等集合訓練	(1面)
1 師 団	第1次師団訓練検閲	(2面)
12 旅 団	米陸軍等との実動訓練	(3面)
1 施設団	創隊記念行事	(4面)
東 混 団	新隊員教育総合訓練	(5面)



総監統率方針「強靱な東部方面隊の創造」
総監要望事項「一隅を照らせ」

陸上自衛隊東部方面隊広報紙

発行所：方面総監部広報室
住 所：東京都練馬区大泉学園町
専用線：8-37-2446

中隊長等集合訓練 資質の涵養及び識能向上

方面隊は6月15日・16日の両日、朝霞駐屯地に於いて、令和8年度第1回方面直轄部隊等中隊長等集合訓練を実施した。

総監訓話では「中隊長は部隊・隊員を直接指導する陸上自衛隊で最も重要な補職の1つであり、部隊の士気・規律・団結の核心であるため、陸上自衛隊が精強であるかどうか、あらゆる任務を完遂できるかは、中隊長にかかっている」と指導するとともに、事前にアンケートを行った①「現在の課題認識及び解決の方向性（自らの考え）」、②「陸自施策の背景等、隊員に対する説明及び質問への回答が難しい」と考えている事項、③

英語特技者等集合訓練 米国人講師による教育も

方面隊は6月26日から29日までの間、朝霞駐屯地において令和8年度第1回英語特技者等集合訓練を実施した。本訓練は多様化する陸上自衛隊の任務に合わせ、方面隊内の英語特技者等の能力維持・向上を目的とし、方面隊下各部隊及び東方面内大臣直轄部隊から15人が参加した。

本訓練では担任官（情報部長 宮本一佐）訓示、通訳概論、民間英会話講師による一般英語、通訳演練及びTOEICスピーキング&ライティング試験を実施した。担任官は訓示において「今後多様化する共同訓練の場で活躍できる要員を目指す。最終日には東京都中野区に所在する一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション・フォーラムに於いて、英語のスピーキング・ライティング能力を把握するため、TOEICを受験した。参加者は「普段、部隊では使用しない機会が少ないが、共同訓練及び有事の際には間違いなく必要になる能力であり、本訓練は有益であった。今後、自研自習に努めていく」と話した。

を要望し、参加者は真剣に聞き入っていた。通訳概論及び通訳演練では現役総監通訳を教官とし、通訳現場における事前の準備事項及び実際の通訳の場を想定した演練を実施した。また民間英会話学校からの米国人講師による一般英会話の教育を受けた。

国歌「君が代」の四部合唱に引き続き、東部方面音楽隊委嘱作品で疾走感のあるコンサートマーチ「ナヴァール・ブルー」から幕開けし、前半は今年度全日本吹奏楽コンクール課題曲「管楽器のためのフィナーレ」と「あつまれ おもちゃのマルチャー！」後半には現在まで残る源義経の伝説の一つ「北行伝説」から発想を得た「想ひ麗し浄瑠璃姫の雪」、宮沢賢治作詞作曲の「星めぐりの歌」、昭和30年代の東京を舞台にした映画「ALWAYS 三丁目の夕日」ハイライト、そしてアンコールには映画『永遠の0』主題歌の「螢」、陸上自衛隊創隊10周年を記念して作られた自衛隊歌「この国は」の全8曲を熱演。8曲すべてを邦人作品で構成し、「和」の世界観で聴衆の愛郷の心のかん養を図るとともに、自衛隊へのさらなる理解協力の気運促進を図った。



総監訓話



識能教育

富士の空へはばたく 東部方面情報隊の戦力化



6月7日、東富士演習場で実施された富士総合火力演習において、東部方面情報隊は、保有する無人偵察機（スキャンイーグルII）の展示飛行を成功させた。スキャンイーグルIIは曇天の気象

不安定の中、会場上空を安定して飛行し、搭載されたカメラや赤外線センサーにより収集した情報を地上の火力戦闘部隊と共有し、情報と火力の連携により敵を撃破するという現代戦の一連の流れを分かりやすく展示し、多くの来場者から注目を集めた。スキャンイーグルIIは各方面情報隊をはじめ、師・旅団情報隊にも配備されている陸上自衛隊の主力無人偵察機で、広域かつ長時間にわたる情報収集を可能とする装備であり、敵情の把握や目標情報獲得を支援する重要な役割を担っている。今回の展示飛行は陸上自衛隊の無人機運用の推進の一端を来場者に紹介する貴重な機会となった。

これまで東部方面情報隊は、戦力化を概成するため総火演における展示飛行を当初の目標とし、全隊員が一丸となって練習訓練を積み重ねてきた。本演習においては、

操縦手である平山2曹がニーズに応えた難易度の高い飛行を成功させた功績により、陸上幕僚長褒賞を受賞した。複雑化する国際情勢の中、首都防衛の任務を有する東部方面隊における情報収集・処理能力の向上はますます重要となっており、今後とも東部方面情報隊は東部方面総監の耳目として、情報業務を推進していくとともに、各種事態に備え日々訓練に励んでいく。



英会話講師による教育



教官（総監通訳）による通訳概論の教育

に努めていくと話した。



来場者を見送る音楽隊



演奏会の様子



多くの来場者が詰めかけた和光市民文化センター

東部方面音楽隊 定期演奏会

東部方面音楽隊は6月13日、和光市民文化センターサンアセリア大ホールにおいて第85回定期演奏会を実施した。

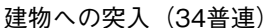
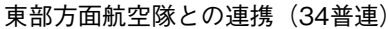
昨年同様2回公演で実施した本演奏会は、和光市文化振興公社の共催により行っているもので、当日は一般応募者のほか、地元和光市内の各学校の吹奏楽部に所属する学生や日頃から自衛隊へご理解と協力を頂いている関係諸団体等招待者が多く詰めかけた。

国歌「君が代」の四部合唱に引き続き、東部方面音楽隊委嘱作品で疾走感のあるコンサートマーチ「ナヴァール・ブルー」から幕開けし、前半は今年度全日本吹奏楽コンクール課題曲「管楽器のためのフィナーレ」と「あつまれ おもちゃのマルチャー！」後半には現在まで残る源義経の伝説の一つ「北行伝説」から発想を得た「想ひ麗し浄瑠璃姫の雪」、宮沢賢治作詞作曲の「星めぐりの歌」、昭和30年代の東京を舞台にした映画「ALWAYS 三丁目の夕日」ハイライト、そしてアンコールには映画『永遠の0』主題歌の「螢」、陸上自衛隊創隊10周年を記念して作られた自衛隊歌「この国は」の全8曲を熱演。8曲すべてを邦人作品で構成し、「和」の世界観で聴衆の愛郷の心のかん養を図るとともに、自衛隊へのさらなる理解協力の気運促進を図った。

第1次師団訓練検閲を実施

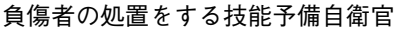
東部方面隊の直轄部隊と連携し任務を完遂

に歩んだ同期同士で互いに励まし合いながら完歩を目指し、それぞれが最後まで力強く歩み続け



練に励み、一人前の自衛官を目指して歩みを進めている。

デモ隊への対応にあたる予備自衛官



▼体力検定（男性陸士）
1 通大 高橋士長
▼体力検定（女性幹曹）
1 通大 丹羽3曹
▼体力検定（女性陸士）
1 施大 小沼士長

MCVの射撃（1偵戦大）

励まし合いながら歩く（1 普連）

代で水分補給を行うなど、周囲への警戒を継続した。

その中で候補生は自衛官としての自覚と責任感を持ちながら基礎動作の徹底に努めた。また苦しい場面では、これまで共に歩んだ同期同士で互いに励まし合いながら完歩を目指し、それぞれが最後まで力強く歩み続けた。

した。
 受賞者は師団長から認定証を授与されるとともに更なる自己研鑽への決意を新たにした。
 ▼各個戦闘射撃検定
 34 普通 伊藤士長
 ▼基本射撃検定（小銃）
 1 後支連 川岸一尉
 ▼基本射撃検定（拳銃）
 32 普通 神 3 曹

▼体力検定(男性幹曹)
1後支連 西上2曹

▼体力検定(男性陸士)
1通大 高橋士長

▼体力検定(女性幹曹)
1通大 丹羽3曹

▼体力検定(女性陸士)
1施大 小沼士長

第12旅団

同盟同士の連携強化

フィリピンで多国間共同訓練

旅団は4月6日から5月20日までの間に実施された令和8年度米陸軍等との実動訓練（JPMRC 26）に参加した。この訓練は米太平洋陸軍が主催しインド太平洋地域の同盟国とともに実施する多国間訓練であり、旅団はフィリピンにおいて増強普通科中隊による電子戦を含めた現代の本格的陸上作戦環境下での各種作戦を演練し、作戦遂行能力の向上を図った。フィリピン共和国で実施さ

れるJPMRC訓練への参加は陸上自衛隊では初となる。旅団は第2普通科連隊の1個中隊を基幹部隊として参加し、比陸軍第7歩兵師団との共同による迫撃砲・戦車射撃訓練や日米比の3か国共同による総合訓練を実施した。共同射撃訓練で連隊は81mm・120mm迫撃砲、第12偵察戦闘大隊は16式機動戦闘車（MCV）をもって参加し、共同統制指揮所の号令により合同

射撃を実施し、射撃能力の向上と日比相互の認識を深めた。また連隊はこの他に中距離多目的誘導弾（中多）、MCV等を運用した火力発揮を含む旅団の作戦に関する実動検証として、攻撃プロセスにおける火力統制の練度を高めるほか、災害用II型UAV等を使用した訓練によって、ドローン対処を含めた広範囲での情報の収集・共有について演練した。収集した情報は即時

に共有され、正確な目標情報を得ることができ、対応に十分な火力運用が可能であることが確認できた。



医療専門家交流に参加する隊員



3か国共同の指揮所演習

品の特長などに対する理解を深め、多国間での指揮幕僚活動の習熟を図ることができた。自衛隊側の装備品にも高い関心が寄せられ、同盟国・同志国が連携した本訓練は極めて大きな成果を得た。熱帯気候という酷暑地でもあるフィリピンでの訓練に慣れるため、参加する隊員は国内で雨衣を活用して暑熱順化訓練を実施したのち比国での訓練に臨んだ。訓練の合間には下士官交流として、各部隊で保有している狙撃銃や機関銃などの小火器やドローン、重迫撃砲などの装備品の勉強会が行われ、隊員は熱心に質疑応答し合

うなど盛り上がり、相互に理解を深めた。旅団長は現地において

米比両陸軍の指揮官を表敬する中で「米陸軍及び比陸軍とともにこの訓練に参加できたことは旅団にとって非常にかけがえない機会であった。これにより、多国間の協力に必要な深い信頼関係と相互理解を築くことができる。このような環境の中で共に汗を流すことにより抑止力及び対処力の強化につながる」と述べ、同盟・同志国との絆を新たなものにした。旅団は今後も引き続き、同盟・同志国との連携が円滑に維持できるよう、任務遂行能力の向上を図っていく。

た。配布予定数であった合計2千食のうち、半分の1千食を炊事した。配布されたカレーライスを試食した見学者からは好評で「避難先での暖かい食事は元気になるぞう」との感想があった。

河ポートで避難させ、軽門橋で消防車両を孤立地域の被へ輸送し、訓練で培った操船技術を披露した。後方支援隊は地域の赤十字団体と協同したカレーライスの炊き出し訓練を炊事車をもって実施した。

今回の水防演習は大雨による周辺地域の浸水や利根川の越水による氾濫という想定で、第1部の水位上昇中の水防演習と第2部の氾濫発生後の救出・救護演習に区分して実施され、旅団はヘリコプター隊、偵察戦闘大隊及び施設隊が救出・救護訓練に、後方支援隊がカレーライスの炊き出し訓練に参加した。

地上偵察班のオートバイから報告された氾濫地域の被害情報を基に、災害対策本部を中心とし連

携した救助活動が開始された。ヘリ隊がビル屋上の被災者を多用途ヘリコプターUH-60JAのホイス

た。配布予定数であった合計2千食のうち、半分の1千食を炊事した。配布されたカレーライスを試食した見学者からは好評で「避難先での暖かい食事は元気になるぞう」との感想があった。

河ポートで避難させ、軽門橋で消防車両を孤立地域の被へ輸送し、訓練で培った操船技術を披露した。後方支援隊は地域の赤十字団体と協同したカレーライスの炊き出し訓練を炊事車をもって実施した。



共同戦車射撃訓練に参加した第12偵察戦闘大隊



総合訓練において攻撃前進する第2普通科連隊

旅団は5月16日、群馬県千代田町の利根川河川敷において実施された第74回利根川水系連合・総合水防演習に参加した。

官民を含む地域全体の防災での連携・協力関係の強化、意識の高揚を図ることを目的として国土交通省利根川河川事務所



渡河ボートで孤立住民を救助

地上偵察班のオートバイから報告された氾濫地域の被害情報を基に、災害対策本部を中心とし連



要救助者を発見する偵察戦闘大隊



1000食のカレーを炊事する後支隊（補給中隊）

官民連携で流域を守る 地域防災力の強固な輪

はばたけ自候生！



体力検定



武装障害走（低鉄条網通過）



掩体構築訓練



武装障害走（囲壁通過）

今春入隊した122人の自衛官候補生は暑さも厳しくなるなか、訓練最盛期の6月を迎えます。ますます逞しく成長中である。第2普通科連隊、第13普通科連隊、第30普通科連隊、第12偵察戦闘大隊での基本教育もまもなく終了し、自候生は3か月という短い教育期間中に培った同期の絆と教官との信頼関係を携えて、自衛官としての新しい一歩を踏み出す。教育終盤の頼もしく成長した姿を紹介する。共に汗を流す日が楽しみな。

第1施設団

古河駐屯地創設72周年
第1施設団創設65周年 記念行事

地域とともに

施設団は5月31日、古河駐屯地において、古河駐屯地創設72周年及び第1施設団創設65周年記念行事を開催した。

本行事は地域住民及び協力団体等に部隊の精強性を顕示し、自衛隊への理解と信頼を獲得するとともに親近感を醸成して防衛基盤の拡充を図り、合わせて茨城地方協力本部と連携し、隊員募集に寄与することを目的に実施した。

記念式典は、厳かな雰囲気の中、自衛隊の活動基盤であり、同じく古河市は、我々隊員及び家族にとって安心・快適に過ごすことができる生活基盤でもある。隊員一同「地域とともに」を合言葉に、古河に自衛隊駐屯地がある良かったと思っていただけ、今後も努力を

観閲官を務めた第1施設団長は「古河駐屯地は自衛隊の精強さを印象づけるよう、今後も努力を

観閲行進では東部方面音楽隊の演奏に合わせて、第1施設団の大型施設車両や、中央即応連隊の軽装甲機動車、施設学校の96式装輪装甲車、混成団の中距離多目的誘導弾及び航空学校宇都宮校のUH-1Jが登場した。轟音を響かせるエンジンや風を切るプロペラの音が、古河駐屯地と自衛隊の精強さを印象づけた。

訓練展示では、東部方面特科連隊による155mm自走榴弾砲の号砲を皮切りに、格闘指導官による迫力ある格闘や、施設団及び第32普通科連隊のレンジャー隊員による航空機からのリペリング降下、第337高射中隊の03式中距離地对空誘導弾（中SAM）の射撃準備等が披露され、会場は大いに沸いた。

体験搭乗では、参加者が高機動車や中型トラックに乗り、施設団の主力装備「92式浮橋」を渡る体験が行われた。参加者からは「車も橋も体験できて良かった。記念写真も嬉しかったです」と笑顔が見られた。

駐屯地営庭では多くの装備品を展示し、陸上自衛隊が運用する最新鋭の主力戦車である10式戦車

観閲行進では東部方面音楽隊の演奏に合わせて、第1施設団の大型施設車両や、中央即応連隊の軽装甲機動車、施設学校の96式装輪装甲車、混成団の中距離多目的誘導弾及び航空学校宇都宮校のUH-1Jが登場した。轟音を響かせるエンジンや風を切るプロペラの音が、古河駐屯地と自衛隊の精強さを印象づけた。

訓練展示では、東部方面特科連隊による155mm自走榴弾砲の号砲を皮切りに、格闘指導官による迫力ある格闘や、施設団及び第32普通科連隊のレンジャー隊員による航空機からのリペリング降下、第337高射中隊の03式中距離地对空誘導弾（中SAM）の射撃準備等が披露され、会場は大いに沸いた。

体験搭乗では、参加者が高機動車や中型トラックに乗り、施設団の主力装備「92式浮橋」を渡る体験が行われた。参加者からは「車も橋も体験できて良かった。記念写真も嬉しかったです」と笑顔が見られた。

駐屯地営庭では多くの装備品を展示し、陸上自衛隊が運用する最新鋭の主力戦車である10式戦車

巡閲

隊区内17の市町旗紹介



中SAMの射撃準備



格闘指導官による格闘展示



観閲行進

観閲行進では東部方面音楽隊の演奏に合わせて、第1施設団の大型施設車両や、中央即応連隊の軽装甲機動車、施設学校の96式装輪装甲車、混成団の中距離多目的誘導弾及び航空学校宇都宮校のUH-1Jが登場した。轟音を響かせるエンジンや風を切るプロペラの音が、古河駐屯地と自衛隊の精強さを印象づけた。

訓練展示では、東部方面特科連隊による155mm自走榴弾砲の号砲を皮切りに、格闘指導官による迫力ある格闘や、施設団及び第32普通科連隊のレンジャー隊員による航空機からのリペリング降下、第337高射中隊の03式中距離地对空誘導弾（中SAM）の射撃準備等が披露され、会場は大いに沸いた。

体験搭乗では、参加者が高機動車や中型トラックに乗り、施設団の主力装備「92式浮橋」を渡る体験が行われた。参加者からは「車も橋も体験できて良かった。記念写真も嬉しかったです」と笑顔が見られた。

駐屯地営庭では多くの装備品を展示し、陸上自衛隊が運用する最新鋭の主力戦車である10式戦車



総合訓練の様子



障害通過運動前の気合入魂

観閲行進では東部方面音楽隊の演奏に合わせて、第1施設団の大型施設車両や、中央即応連隊の軽装甲機動車、施設学校の96式装輪装甲車、混成団の中距離多目的誘導弾及び航空学校宇都宮校のUH-1Jが登場した。轟音を響かせるエンジンや風を切るプロペラの音が、古河駐屯地と自衛隊の精強さを印象づけた。

訓練展示では、東部方面特科連隊による155mm自走榴弾砲の号砲を皮切りに、格闘指導官による迫力ある格闘や、施設団及び第32普通科連隊のレンジャー隊員による航空機からのリペリング降下、第337高射中隊の03式中距離地对空誘導弾（中SAM）の射撃準備等が披露され、会場は大いに沸いた。

体験搭乗では、参加者が高機動車や中型トラックに乗り、施設団の主力装備「92式浮橋」を渡る体験が行われた。参加者からは「車も橋も体験できて良かった。記念写真も嬉しかったです」と笑顔が見られた。

駐屯地営庭では多くの装備品を展示し、陸上自衛隊が運用する最新鋭の主力戦車である10式戦車

観閲行進では東部方面音楽隊の演奏に合わせて、第1施設団の大型施設車両や、中央即応連隊の軽装甲機動車、施設学校の96式装輪装甲車、混成団の中距離多目的誘導弾及び航空学校宇都宮校のUH-1Jが登場した。轟音を響かせるエンジンや風を切るプロペラの音が、古河駐屯地と自衛隊の精強さを印象づけた。

訓練展示では、東部方面特科連隊による155mm自走榴弾砲の号砲を皮切りに、格闘指導官による迫力ある格闘や、施設団及び第32普通科連隊のレンジャー隊員による航空機からのリペリング降下、第337高射中隊の03式中距離地对空誘導弾（中SAM）の射撃準備等が披露され、会場は大いに沸いた。

体験搭乗では、参加者が高機動車や中型トラックに乗り、施設団の主力装備「92式浮橋」を渡る体験が行われた。参加者からは「車も橋も体験できて良かった。記念写真も嬉しかったです」と笑顔が見られた。

駐屯地営庭では多くの装備品を展示し、陸上自衛隊が運用する最新鋭の主力戦車である10式戦車



先日、東部方面音楽隊の定期演奏会を鑑賞しました。迫力ある演奏と心に響く音色に、私も思わず「素晴らしかった!」と感じました。音楽はもちろん、映画や食事、そして日米共同訓練など、感動や学びを誰かと共有したくなる場面はたくさんあります。

今回は、そんな「感動」を英語で伝える際に役立つ、シンプルで実用的なフレーズをご紹介します。

“I was impressed.”

(感動しました。／とても印象に残りました。)

最もよく使われる万能な感想表現です。音楽や映画、プレゼンテーション、訓練など、幅広い場面で使えます。

また相手への敬意も伝えられる表現です。

【例】
I was impressed by your teamwork.
(皆さんのチームワークに感動しました。)

“It was very informative.”

(とても勉強になりました。)

訓練やブリーフィング、研修などで、「多くの学びがあった」と伝えたいときに便利です。

【例】
The training was very informative.

“I learned a lot.”

(とても学びの多い訓練でした。)
(多くのことを学びました。)

訓練や研修を振り返る際によく使われる、シンプルで自然な表現です。

【例】
I learned a lot from today's training.
(今日の訓練で多くのことを学びました。)

“It was tough, but worth it.”

(大変でしたが、その価値がありました。)

厳しい訓練や演習を終えた後の、「苦労はしたが、やって良かった」という気持ちを表す定番フレーズです。

“It was a challenging but rewarding experience.”

(大変でしたが、やりがいのある経験でした。)

rewardingは「努力が報われる」「達成感がある」という意味です。訓練や海外派遣、共同演習などを振り返る際によく使われます。

英語で感動を伝えるのに、難しい表現は必要ありません。短い一言でも、その言葉が相手との距離を縮め、新しい会話のきっかけになります。YSも始まっていますので、ぜひ使ってみてください。

“Kind words cost nothing.”

(優しい言葉は何も失わない。)

感動したことや学んだことは、ぜひ言葉にして伝えてみてください。その一言が、人とのつながりをより深いものにしてくれるはずです。では、皆さん来月号でお会いしましょう。

集団生活から学ぶ絆 武山駐屯地で生活体験



第31普通科連隊は5月12日から15日までの間、武山駐屯地において第3中隊が担任となり、大日精化工業株式会社の生活体験を実施した。

この体験は昭和40年から数えて今年で57回目となり、今回の生活体験には引率者8人と男性22人、女性28人の研修生、計58人が参加し、これまでに累計で1141人となった。

生活体験の目的は、社会人としての責任を自覚し相手を敬う精神を醸成するとともに、入社同期との絆の強化を図り、自衛隊への理解を促進するものであり、このためチームビルディング・基本教練・体力測定・格闘・救急法・20km行進の体験が実施された。

生活体験期間は天候に恵まれ、一人の脱落者も出ることなく、全日程が滞りなく終了した。研修生は「各種体験を通じて大きく成長するこ



ドローンによる偽装を行う新隊員



歩哨の監視要領を学ぶ新隊員



地雷通過口を疾走する新隊員

東部方面混成団

3か月の集大成 東富士演習場で総合訓練

女性自衛官教育隊は、第26期一般陸曹候補生及び第30期自衛官候補生課程の新隊員に対し、約3か月の訓練の集大成として総合訓練を実施した。

習場特有の不安定な地形や緩急の激しい坂道の繰り返しなど、これまで以上に厳しい環境もあったが、天候も味方し、同期皆で見事完歩を達成した。歩哨の場面では、訓練場とは全く違う身長よりも高い草木、高低差の激しい地形などの環境の違いによる「監視地域の見え方の違い」を体感することができた。

訓練の最終課題として行われた攻撃では、凹凸が激しい広範な地形や背丈ほどの草により、隣に

関係機関との連携強化 共同訓練を実施

第31普通科連隊は武山駐屯地において第5中隊が担任となり、神奈川県警察・海上自衛隊・海上保安庁との共同訓練を実施した。

各関係機関間における各種状況判断に資する意見交換や図上訓練及び自衛隊・警察による訓練展示、治安出動下における不法行動者の対処などの実動訓練が実施され、連隊の実力を示すとともに関係機関との連携の強化が図られた。

特に実動訓練においては通報から自衛隊と神奈川県警の合同指揮所の開設、現場における情報共有、不審者の発見制圧・拘束、引き渡しの一連の行動が実施され共同対処能力を向上させた。



室内への突入要領を展示する31普連

東部方面混成団 公式Xはこちら!
陸上自衛隊【東部方面混成団】公式 @EACB_takeyama
たくさんフォローお待ちしています!

東混団・31普連 インスタ始めました! フォローお待ちしています!

東混団 31普連 48普連

総監部人事部募集課 募集ニュース

令和8年度都県募集連絡会議



群馬県知事挨拶



自治体による発表



会議の様子



総監挨拶 (VTC)



記念撮影

6月3日、群馬県高崎市内において、方面総監部主催の「令和8年度都県募集連絡会議」を開催した。

当日は関東地域への台風6号の接近に伴い、各

また各都県の自治体及び地本からの発表では、自治体主催の募集事務担当者会議、防災・広報イベント等による募集活動が自衛隊の認知度向上につながった良好事例や学

そして最後に総監は「会議の成果として、各都県の自治体の取組についての積極的な意見交換、発表内容を通じ、自衛隊を職業としての理解することの促進、教育関係者との

今後とも少子化、進学率の上昇、民間企業との競争激化等、自衛官募集を取り巻く厳しい募集環境は継続するものの、東部方面隊はより一層自治体、教育機関等との連携及び陸海空自衛隊一丸となった広報施策を促進して、組織的募集を更に推進し、一人でも多くの募集対象者に自衛隊の魅力を発信して、自衛隊に必要な人材の確保を追求する。

都県から参加する方々の安全性を考慮し、VTCを併用した会議となったものの、自治体職員及び募集相談員の方々に對して、自衛官募集の現況等について理解の促進を図るとともに、各都県の募集に係る主要施策等の発表・意見交換を実施し、厳しい募集環境における我々自衛隊と自治体等との連携、募集基盤強化に向けて方向性を一致させることができた。

また各都県の自治体及び地本からの発表では、自治体主催の募集事務担当者会議、防災・広報イベント等による募集活動が自衛隊の認知度向上につながった良好事例や学

そして最後に総監は「会議の成果として、各都県の自治体の取組についての積極的な意見交換、発表内容を通じ、自衛隊を職業としての理解することの促進、教育関係者との

今後とも少子化、進学率の上昇、民間企業との競争激化等、自衛官募集を取り巻く厳しい募集環境は継続するものの、東部方面隊はより一層自治体、教育機関等との連携及び陸海空自衛隊一丸となった広報施策を促進して、組織的募集を更に推進し、一人でも多くの募集対象者に自衛隊の魅力を発信して、自衛隊に必要な人材の確保を追求する。

校との連携による総合的な学習、探究型インターンシップ等の活動の実施状況等について共有することになった。また会議において群馬県知事からは、「日々の自衛隊の活動への感謝」と「組織の基盤は人材であり、自衛隊の入隊激励会には必ず出席し、県として自衛隊の応援を約束すること」の自衛隊に対する熱い言葉をいただいた。

の募集協力促進、自治体による効果的な募集業務の実施、募集相談員による募集促進の4つの柱で、地本を中心として連携し組織的募集が推進されていることを確認できた。自衛官募集の原点は、我々が国民の皆様から信頼され、若者たちが憧れる存在であり続けることであり、今後とも日々の厳しい訓練により、任務を完遂し、明るく生き生きと活躍できる組織を創造していく所存である」と参加者に対し期待の言葉を述べた。

2 高群

高射中隊等が受閲

野外行動訓練検閲

第2高射特科群は5月中旬から6月下旬にかけて隷下7個中隊等に対して野外行動訓練検閲を実施した。各高射中隊等は状況の変化に応じて柔軟に状況判断し、各隊員は偽器材の作成等により健



対空戦闘



陣地進入

東部方面隊の対空作戦専任部隊として、また重要正面に転用されて作戦する部隊として、隊員一人一人が自らの立場で精一杯の努力を積み重ね、強靱な東部方面隊の創造に寄与できるよう日々の訓練に邁進していく。

衛生隊

白衣から戦闘服へ

予備自衛官が磨く即応の技

東部方面衛生隊は5月29日から6月2日までの間、朝霞駐屯地において、



安全な場所へ患者を運び出す隊員

本招集訓練は衛生科予備自衛官としての資質の養成、必要な知識及び技



第一線救護訓練

能の練度維持向上を図る目的のもと、83人の予備自衛官が参加した。参加者は予備自衛官(医師・看護師等)77人及び一般予備自衛官6人であったが、予備自衛官補(技術的戦闘傷病者救護)に



負傷した隊員を救護する隊員

後、3個訓練編成班に区分して「第一線救護」、「収容所業務」、「後送業務」を実施した。第一線救護は屋内施設でスモーク、音響、照明等により戦場を模した環境において、敵スナイパーから狙撃が予想される状況での救護活動を行った。また、屋外にて小型車両の事故現場を模した地域を設け、敵ゲリラの活動が予想される状況での車外救助活動を行った。参加者からは「今までにない訓練を体験できて大変良かった」と好評であった。

今後は国民保護等招集及び災害招集において常備自衛官と連携した衛生支援活動の訓練を計画し、予備自衛官の作戦遂行能力向上に寄与していく。

CTS

訓練部隊の実行能力向上に最大限寄与



指揮所訓練統裁支援



総監に対する訓練状況の説明

東部方面指揮所訓練支援隊は6月13日から19日までの間、第13普通科連隊が実施した令和8年度第2回指揮所訓練センター訓練(以下「BCTC」)を支援した。

本訓練は指揮所訓練統裁支援サーブिस(以下「ICE」)を活用し、各部隊の指揮幕僚活動を演練し、各級指揮官の状況判断及び戦闘力の組織化に係る練度向上を図り、作戦遂行能力の向上の資とすることを目的として支援した。

また第13普通科連隊は「前方地域の戦闘」を主要演練項目に掲げ「BS(バトルセンサ)検証」「山岳レンジャーの運用検証」「レジリエンス検証」「連隊CPレイアウト」等を検証項目として訓練に臨んだ。

加えて連隊長は「指揮所」については分散型を追求し「訓練の焦点は前方地域の戦闘(情報と火力・BS・弾幕発動等)」を指針として示し、一方統裁方式で実施された。

隊は本訓練の支援にあたり、第13普通科連隊と訓練実施要領等について綿密な調整を実施した。訓練実施期間においては、統裁部・訓練部隊と密接に連携し、ICEの操作実習、入力統制及び研究会資料の収集・提供等を実施した。

特にBCTC訓練に向けた第13普通科連隊の指揮幕僚活動に係る能力の向上及び計画の具体化に寄与した。

また16日には東部方面総監の訓練視察を受け、ICEサーブिस及びBCTCの概要並びに、第13普通科連隊のBCTC運営の実情を確認していただいた。

隊は引き続き訓練部隊の二ノズに最大限に応えつつ、創意を尽くして、訓練支援の質的向上と支援基盤の充実に努め、強靱な東部方面隊の創造に最大限寄与していく。

シ通群

訓練検閲へ向け始動
創意を凝らし練成績み上げる

映像写真撮影任務



野外における有線構成

東部方面システム通信群は今年度最大の目標でもある令和8年度方面隊訓練検閲へ向け本格的に訓練を開始した。

4月・5月に部隊の基礎となる部隊以下を徹底した訓練を開始した。本格的行動、隊員の基礎動作を演練し、6月には基礎となる部隊以下を徹底した訓練を開始した。

れぞれ方面隊の作戦のためのシステム通信をいかなる状況においても確保し続けるかを念頭に取り組んでいる。

群馬地本

絆は入校してからも続いている
防衛大学校フオリイイベントが
つないだ成長の物語

「不安よりも、期待を胸に新しい一步を踏み出してほしい」と話す自衛隊群馬地方協力本部前橋募集案内所長の土屋2尉は、令和8年3月、今春防衛大学校へ入校する予定者を対象としたフオリイイベントを案内所一丸となって開催した。

当日は群馬県出身の現役防衛大学校学生3人が指導役となり、防大生活で欠かせないアイロン掛けや靴磨きの実践形式で指導が行われた。

制服の折り目を美しく整える技術や、靴を鏡のように磨き上げる方法を学びながら、参加者たちは最初こそ戸惑いを見せていたが、先輩の丁寧な助言に耳を傾け、真剣な表情で習得していった。

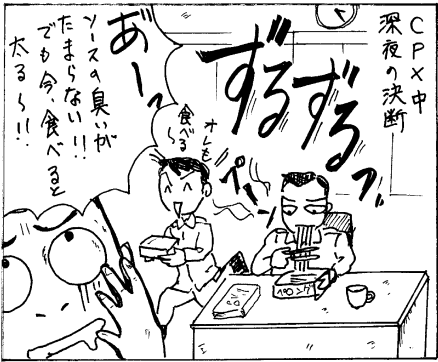
懇談会では群馬出身の先輩だからこそ伝えられる防大生活の実情や心構え、仲間と支え合うこと



靴磨きのコツを現役防大生に教わる参加者

ある！ある！自衛隊

byともえ



新潟地本

地域とともに希望あふれる一日を
中越地震復興記念祭を支援

新潟地本は4月19日、小千谷市で開催された中越地震復興記念祭において、航空自衛隊ブルーインパールの展示飛行をはじめとする広報活動を支援した。

展示飛行は令和6年の



青空に描かれた「錦鯉ローパス」

アニメ文化を通じた地域との交流
地域イベントから広がる自衛隊の魅力



コスプレイヤーとの交流

栃木地本は5月31日、足利市で開催されたアニメ・ゲームイベント「ひめたま祭」において、第12高射特科隊の支援を受け、自衛隊ブースを出展した。

「ひめたま祭」は数百年の痛車や多くのコスプレイヤーが集まる北関東有数の人気イベントで、当日は多くの来場者でにぎわい、会場は終日活気に包まれた。

自衛隊ブースでは、93式近距離地对空誘導弾発射装置や1/2メートルの展示、制服試着などを実施し「本物ですか。カッコいい」と驚きの声が上がリ、装備品の役割や任務について質問する

震災20年事業として予定されていたが、台風の影響で中止となっていた。

「もう一度、小千谷の空を飛んでほしい」という地域住民の願いが実り、今回の実施につながった。

市内には歓迎ののぼりや看板が数多く掲げられ、復興を支えてきた地域の方々の思いが街全体に溢れていた。当日は県内外から約10万人が訪れ、復興を祝う一日となった。

中越地震の当時、多くの人が不安な気持ちで見上げた夜空から22年、当日は澄み渡る青空の下、小千谷市のシンボルである錦鯉にちなんで「錦鯉ローパス」が披露された。白いスモークが描く大空の軌跡は、復興への歩みと未来への希望を象徴するかのようで、会場からは惜しめない拍手と「ありがと」の声が続き渡った。

展示飛行後のサイン会では、多くの来場者が隊員へ感謝の言葉を伝え、地域との温かな交流が生まれた。また新潟地本の自衛隊ブースでは、車両展示や制度紹介に加え、

静岡地本

模型展示会に陸自車両が集結
模型から広がる自衛隊との新たな出会い



MCVの動的展示に大いに盛り上がる会場

静岡地本は5月15日から17日までの間、ツインメッセ静岡で開催された第64回静岡ホビーショーに参加した。

国内外の模型メーカーが集う国内最大級の展示会には約4万8千人が来場した。屋外では16式機動戦闘車（MCV）や軽装甲機動車などを展示し、MCVの砲塔旋回では迫力あるエンジン音と動きに多くの来場者が足を止め、模型では味わえない実車の魅力を体感していた。

屋内ブースでは装備品模型や自衛隊紹介パネル、紙飛行機製作体験、自衛隊質問コーナーを設置。第105全般支援大隊の隊員が製作した精巧な

木製模擬銃も展示され「本当に木製なのですか」と驚きの声がかかるなど、多くの模型ファンの関心を集めた。

募集広報官は来場者との対話を大切に、装備品の役割や、自衛隊の仕事について分かりやすく説明。「どのような任務で使われるのですか」といった質問も多く寄せられ、模型への興味をきっかけに、自衛隊への理解を深める場となった。

静岡地本は展示物を見て、「装備品に触れて、隊員との会話で自衛隊を「感じる」広報活動を大切に、今後も各種イベントにおける参加者とのふれあいを通じ、自衛隊の魅力を発信していく。

訓練所感

東部方面音楽隊
中村 優太3等陸曹



私は令和8年3月に第13音楽隊から異動し、今月初めて東部方面音楽隊の一員として定期演奏会に参加しました。陸上自衛隊及び東部方面隊に対する国民の理解や親近感の醸成を目的として行われた本演奏会は、より多くの方々に会場いたるパイロットスーツやヘルメットを展示。家族連れや子どもたちが多く訪れ、会場は大きな歓声に包まれた。白いスモークが描く大空の軌跡は、復興への歩みと未来への希望を象徴するかのようで、会場からは惜しめない拍手と「ありがと」の声が続き渡った。

展示飛行後のサイン会では、多くの来場者が隊員へ感謝の言葉を伝え、地域との温かな交流が生まれた。また新潟地本の自衛隊ブースでは、車両展示や制度紹介に加え、

な訓練に臨みました。合奏訓練が終わると改善すべき点を隊員同士で意見交換し、それぞれ研鑽を積み重ねることで日に演奏が磨かれていくのを肌で感じられ、私にとっても学びの多い2週間となりました。

私の担当する打楽器は演奏方法が「叩く」という非常に原始的な行動で、人間が音を出す行為としては次の生まれたいかなる楽器が誕生し、独自の歴史を刻んできました。今回は日本の曲を演奏しましたが、その曲には和の雰囲気表現すべく日本の太鼓が編成に組み込まれており、私は長胴太鼓を担当しました。同じ「打楽器」でも生まれた国が違えば演奏方法も大きく異なり、西洋の管楽器の合奏体である吹奏楽という形態の中でどのように演奏すればいいのか悩みましたが、周囲からの意見を基に試行錯誤を重ね、最終的には良いアンサンブルができたと感じています。この演奏会を通じ、方面音楽隊は隊員が相互に刺激しあい、成長していける部隊だと感じました。この恵まれた環境に感謝し、今後も部隊に貢献していけるように精進していきたいと思っています。

最先任 上級曹長

「日々成長」

第4施設群

西田 研二 准陸尉

令和8年3月16日付で第7代第4施設群兼て座間駐屯地最先任上級曹長に上番しました西田准尉です。

間へ移駐した現在に至るまで、延べ28年間にわたる第4施設群に育っていただきました。この間、諸先輩、同僚、後輩等様々な方から助けられ今まで成長させていただきました。この場を借りて感謝



申し上げます。第4施設群は創設54周年を迎え、座間駐屯地は陸上自衛隊で唯一在日米陸軍キャンプ内に所在する駐屯地で

あり、歴史と伝統あるこの地で勤務できることを大変光栄に思っています。

最先任上級曹長に上番

でも、それらを扱い、状況に応じて判断し、最後までやり遂げるのは隊員一人ひとりです。隊員一人の少しの変化が日々積み重なることで成長になり、それが部隊の強さにつながります。成長とは大きな成果のみならず、昨日できなかったことが今日できるようになること、仲間を気遣う行動が増えることなど、小さな積み重ねが人を成長させます。だからこそ、私は隊員の小さな努力や変化を見逃さず、賞賛や

感謝の言葉をできる限り伝えるように心掛けています。同時に、若い隊員が失敗を恐れず挑戦できる環境や意見を率直に言える環境づくりも重要だと考えています。

最先任上級曹長として部隊をより良くするため、准曹士の先頭に立ち模範を示し、自己修練を継続し、隊員一人ひとりと真摯に向き合い、隊員が自ら考え行動し日々成長できる環境づくりに努め、強く信頼される部隊の育成に尽力してまいります。



第12偵察戦闘大隊 毛塚 蓮 陸士長



毛塚 蓮 士長（左）

境にあります。幼い頃から父の勤務する姿を身近に見て育ち、自衛官という職業が国と国民を守る重要な任務を担っていることを自然と理解してきました。父は多忙な中でも規律を重んじ、常に責任ある行動をとっており、その姿勢は家庭内においても変わることはありませんでした。

私は第12偵察戦闘大隊（相馬原）に勤務し、父及び弟が自衛官という環境にありま

で、自分自身も負けていけないという気持ちが生まれ、より一層任務に向き合う姿勢が強まりました。一方で、同じ部隊であるからこそ互いの行動が周囲に与える影響も大きく、それぞれが責任をもって行動することの重要性を強く意識しています。



「経験を糧に」 第1後方支援連隊 土屋 雅 陸士長

今月のフェアレディーは、第1後方支援連隊の土屋士長です。

土屋士長は東京都練馬区出身の25歳。令和5年10月に第1後方支援連隊本部付隊に配属され、現在通信小隊のネットワーク手として勤務しています。部隊の通信網の構成、維持、運営に必要な知識及び技術の習得に努めるとともに、小隊訓練等を通じて練度向上に努めています。

Q 自衛隊に入隊したきっかけは？

Q 現在の職務に就いての感想は？

Q 休日の過ごし方は？

Q 今後の目標は？

Q 入隊のきっかけは？

Q 最後の一言

Q 編集後記

2026北中米サッカーワールドカップに再び魅了されたことは記憶に新しい。チーム数は過去最多、各ステージで強豪も初出場も平等に駒に掛けられ、目前の一戦を制し続けた勝者だけがカップを手中にできる。世界中で発展し続けたサッカー、歴代優勝国との戦力差は

他方、こんな言葉を回想した。戦術の失敗は戦闘では取り返せない。では課題は何か。掲げた景色は霞んだが、成長を止めなければ、悔しさの先にある「最高の景色」は近い将来必ず掴めることがわかった景色だった。



第1後方支援連隊

東方男児 「勇往邁進」 第104全般支援大隊 作道 勇太 陸曹長

今月の東方男児は東部方面後方支援連隊第104全般支援大隊に所属する作道幹部候補生です。



平成31年3月に入隊し、3曹に昇任後、部隊に貢献しようとしたが、自分自身の力を民間企業でも試したいと思い、令和4年9月、一度自衛隊を退職しました。

Q 二度目の自衛隊人生で挑戦したいことは？

Q その挑戦のためにやっていることは？

Q 最後の一言

Q 編集後記

2026北中米サッカーワールドカップに再び魅了されたことは記憶に新しい。チーム数は過去最多、各ステージで強豪も初出場も平等に駒に掛けられ、目前の一戦を制し続けた勝者だけがカップを手中にできる。世界中で発展し続けたサッカー、歴代優勝国との戦力差は